# 関わり合いながら 深く考える子の育成

## ~対話的な授業づくりを通して~

(2年計画の2年次) 校長名 中奥 尚子

#### 1 研究主題について

(1) 主題設定の理由

本校は教育目標を「生き生きと 心も体もたくましく」と定め、子どもの明るい声が響き、学力・思いやりの心・体力・生活力を確実に育てる学校を目指している。教育目標、これまでの研究経過と、「主体的・対話的で深い学び」という授業改善の視点を踏まえ、研究主題を「関わり合いながら深く考える子の育成」と設定した。

昨年度は授業の導入の工夫に取り組んだ。「~しよう」という課せられた問題ではなく、「~はどうすればよいか」といった、児童の思考を表した学習問題を意識し、授業研究を通して児童のもつ問いの共有を図り、対話的な授業づくりに努めた。今年度は、授業づくりの視点を4つに整理し焦点を絞って授業改善に取り組んだ。児童がより課題意識を持ち、自分の考えを表現することを通して、対話によって問題を解決しようとすることができるよう、授業展開の工夫を行った。また、変容を実感できる振り返りを通して、自分や仲間を肯定し、学び合おうとする態度を高める支援の方法について研究を進めた。

- (2) これまでの研究内容の推移
  - ア 令和3年度の実践研究の成果から
    - ①「問いの共有~自力試行~学び合い~振り返り」というプロセスを共通理解し、授業研究・個人研修によって多様な教科・領域の中で問題解決的な学習を進めることで、本校の目指す「関わり合いながら深く考える子の育成」に迫ることができた。特に、「自己内対話」「教材との対話」を進めるため、「思考のズレ」を起こすような学習問題の設定を全校で意識して進めることができた。そのことが子どもたちの追究意欲につながり、思考しようとする態度、考えの変容を自覚した振り返りに表れるようになった。
    - ②1人1台端末についての研修を重点的に行うことによって、ストリームや Jamboard の活用など、学年の発達段階に応じた日常的な活用がなされるようになった。
  - イ 令和2年度の課題から
    - ①子どもたち一人一人の考えを引き出し、考えを再構築させるための発問や問い返しの仕方など、 対話を進めていくための教師の役割について継続して検討していく必要がある。
    - ②1人1台端末の活用など、どうすればICTを効果的に使用できるのか、教師が授業の中で活用方法を選択・判断し、資質・能力を身に付けさせるための研修をさらに推進していく必要がある。

## 2 研究のねらい

問題や他者との関わりの中で子どもたちが思考し、学びを深めるための授業の在り方や指導方法について授業実践を通して明らかにする。

## 3 研究仮説

児童の追究意欲を喚起する課題を設定し、対話を通して解決しようと取り組ませることにより、深く思考する力を伸ばすことができると考える。

## 4 研究内容

(1) 研究仮説を検証するための4つの視点について、日常の授業の中での実践を通して明らかにする。 ア 視点1:子どもたちの解いてみたいという願いと教科・教材の目標を踏まえた学習課題になっ ているか。

- イ 視点2:思考力・判断力・表現力につながる言語活動を意識した授業になっているか。
- ウ 視点3:対話による子どもたちの思考の過程を大切にする授業の流れになっているか。
- エ 視点4:子どもたちが考えの変容や深まりを実感できる振り返りとなっているか。
- (2) 「課題把握(見通し)、自力試行、学び合い、振り返り」の学習段階を元にした、主体的に課題を解決する学習の充実を図る。
- (3) 個人の成果と課題の共有による、全体での学びを推進する。

#### 5 研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日		学年・授業者・題材名・講師
6	22	授業研究	5 学年 乙山百恵 特別活動「サブリーダーとしての自分の役割」
			講師:八戸市総合教育センター 所長 河村雅庸 氏
7	13	授業研究	4 学年 井畑英夫 体育科「マット運動」
			講師:本校 教頭 中村雅人
9	2	要請訪問	1 学年 花田杏野 特別活動「あいさつをレベルアップさせよう」
			講師:八戸市教育委員会 教育指導課 主任指導主事 中村美穂 氏

#### (2) 一般研修

月	日	研修内容・講師			
71	П				
5	2	通常の学級における支援が必要な児童への支援について 本校 教諭 工藤巨幸			
6	1	PPRについて 立教大学 教授 大石幸二 氏			
6	22	特別活動について・八戸市総合教育センター 所長 河村雅庸 氏			
7	6	掲示物から見る児童の傾向と具体的支援 立教大学 教授 大石幸二 氏			
7	21	教育課程説明会での学びの共有 本校 教諭 佐々木俊介			
8	19	ソーシャルスキルトレーニングについて 八戸市立第二中学校 教諭 佐藤佳子 氏			
9	13	能動的な聴き方と児童理解 立教大学 教授 大石幸二 氏			
9	21	1人1台端末の活用について①			
		八戸市総合教育センター 主任指導主事 石井一二三 氏			
11	2	1人1台端末の活用について② 本校 教諭 佐々木俊介			
12	7	Q-U、PPR から見る現状と支援の充実に向けて 立教大学 教授 大石幸二 氏			

#### 6 研究の成果

- (1) 4つの視点(学習課題の設定・言語活動・対話・振り返り)を基にした授業づくりを行ったことで、児童自身の「考えたい、解決したい」という強い課題意識のもと、友達や教師、資料と様々な形で関わりながら、学習問題について深く考えさせることができた。これにより、本校の目指す「関わり合いながら深く考える子の育成」に迫ることができた。日常的に授業改善に取り組んだことで、授業づくりに対する教師の意識が向上し、そのことが子どもたちの追究意欲につながり、思考しようとする態度、考えの変容を自覚した振り返りに表れるようになった。
- (2) 特別支援的な視点での児童理解に関する研修を重点的に行うことによって、児童理解に基づいた 効果的な支援がなされるようになった。

### 7 研究の課題

- (1) 児童は意欲をもち課題解決に向かっていたが、自分の考えを書いたり、話したりする技能が十分に身に付いておらず、対話による学びの深まりが難しい傾向が見られた。言語能力を含めた、学習の基盤となる能力の育成を図りながら、主体的に課題に向かう態度を身に付けさせる指導の在り方について検討していく必要がある。
- (2) よりよい自分を目指し粘り強く取り組む態度を身に付けさせるため、自分や仲間の成長を認められる振り返りや、体力の向上についての研修を推進していく必要がある。(記入者 佐々木俊介)